

高等学校第一学年 「探求」 学習指導案

奈良教育大学大学院教育研究科修士課程伝統文化教育・国際理解教育専攻 福田実莉

1. 単元名 「手書き文化について考えよう」

2. 単元の目標

○手書き文化や書に関する伝統的な産業に関する現状について理解することができる。

(知識及び技能)

○学習をもとに課題を立て、情報を集め、整理・分析し、手書き文化の継承のための方策を考えることができる。また、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について工夫し、書のよさや美しさを味わって捉えることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○手書き文化や書のよさ・美しさを感じ、見学、鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。

(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

書道は2021年にユネスコ登録無形文化財となり、書道が伝統的な文化として認められた。しかし、現代ではパーソナルコンピューターやスマートフォンの普及により、手書きの機会が年々減少している。それに付随して、書道に触れる人数も減少傾向にある。児童生徒に伝統的な文化である書道に触れてもらうだけでなく、書道に対する評価や価値、書道に関する産業の現状について知ってもらうことで、書道に興味・関心を持ってもらうとともに、手書き文化について考え直す機会にしたいと思い、この単元を設定した。

(2) 生徒観

本学級では、中学校の時に書写を全員学習しているものの、芸術科の授業で書道を選択している生徒は三分の一ほどであり、芸術としての書道を学習していない生徒も多い。書道は書写とはまた違うもので芸術分野であることや、用具用材にも多くの歴史があり、奈良という土地のかかわりが深いことを知り、書道に興味・関心を持ってもらうことを目標とする。

(3) 指導観

本単元では、大きく「①書道の評価と産業の現状について知る」と「②実技」に分けることができる。①では、外国から見る書道に対する評価・価値と、書道に関する【筆】【墨】の産業の現状について、交流や見学を通して知り、考えさせる。ゲストティーチャーや職人との交流を活動の主軸として、様々な人の意見を聞き、書道・手書き文化の価値について考えさせることを目標とする。②の実技指導では、高等学校学習指導要領（芸術科）の目標全3項のうち、「(1)芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにすること」と関わりを持たせた指導を行う。「〇〇へ感謝」という言葉を生徒が表現したい印象を踏まえたうえで構成や字形を考えさせる。また、その作品について相互鑑賞を行い、相手の作品の良いところを見つけて交流することで、多様な見方・考え方に触れることを目標とする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…手書き文化の存在は当たり前ではないこと。デジタル化が進む今、書字文化が廃れていっている傾向にあること。

公平性…デジタル化が進む今、墨や筆、紙などの書に関わる伝統的な産業を行っている会社が減っていること。これを見過ごせば、いずれこれらの産業は無くなってしまいうこと。

連携性…手書き文化は、書道を専門に学習している人だけがつないでいくのではなく、世界全体でつないでいくことが大切であること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング

手書き文化の存在について改めて考え直し、その存在が当たり前ではないことを知る。
そのうえで、手書き文化を継承するためにどうすればよいかを考える。

コミュニケーションを行う力

手書きの作品について、意見交流を通して互いの作品の良さを見つけるとともに、手書きの良さについて自分の考えをつくりあげる。

進んで参加する態度

手書き文化の継承のために自分にできることはないかと考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、考えをつくろうとしたりする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

自分たちだけでなく、後世の人々にも手書き文化を伝える

人権・文化を尊重する

手書き文化が無くならないように努めなければならない

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

・達成が期待される SDGs

4 質の高い教育をみんなに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 手書き文化や書に関する現状について理解している。 ② 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。	① 学習をもとに課題を立て、情報を集め、整理・分析し、手書き文化の継承のための方策を考えている。 ② 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ③ 作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	① 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、手書き文化が継承される社会を実現しようとする態度を養おうとしている。 ② 書のよさや美しさを感じ、鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養おうとしている。

5. 単元の指導計画（全15時間）

学習内容	学習への支援	評価
1. 墨や筆をつかって書くことの良さについて考える ○筆や墨、和紙を使って書いた手書きの年賀状と印刷の年賀状を比べる ・それぞれに良さがある ・手書きの物は捨てられない ・手書きのものは特別感がある ・印刷のものは誰が作っても同じ	○筆や墨、和紙を使って書いた手書きの年賀状と印刷の年賀状を提示し、特に自分がこれらの年賀状をもらった時を想定した時に受ける印象について考えさせるとともに、それぞれの良さについて考えさせるようにする	イ③
2. 「書道」に対する外国人の評価について知る ・ゲストティーチャーの話を聞く ・質問をして、交流を図る	○在日外国人書道学習者のゲストティーチャーを招き、外国から見る書道の評価、価値についての講演を聞かせ、書道という伝統文化を位置づけ、価値について考えさせる	ア①
3. 墨や筆を使って書く文化は無くなってもいいのか考える ○墨を生産している会社、筆を生産している会社に分かれて見学しに行く。見学を通して、それぞれの工芸品の種類による表現の違いについて学習する。また、産業の現状や会社の努力、願いなど、職人さんの言葉を聞く	○見学中に「①用具の種類による表現の違いについて」と「②産業の現状や会社の努力、職人の願い」について着目して話を聞くことを意識させる	イ① ア① ウ①

○【墨】【筆】の見学グループに分かれ、見学や調べ学習で分かったことをまとめ、発表する 4. 「手書き文化」について鑑賞する ○想いが込められたメッセージ性のある作品として、看板や包装紙、書道パフォーマンスなどを鑑賞する ・表現が自由である ・思い切り書いてみたい ・想いを込めて表現してみたい 5. 筆と墨で表現する ○年賀状を書く ○相互で鑑賞する	○「①用具の種類による表現の違いについて」と「②産業の現状や会社の努力、職人の願い」の項目を中心に、パワーポイントを用いて発表させる ○パワーポイントや動画などの資料を提示し、身近にある書道に関する事柄、活動について紹介する ○意図を明確にさせ、意図に基づく表現ができているか強調し、意識を持たせる ○相互で制作意図や受ける印象、作品の良さなどについて交流させる ○作品を集め、後日、年賀状コンクールを校内で開催する	ア① イ① ア① ア② イ② ウ② イ③
6. 手書き文化の発信を試みる	○本単元で学習したことを踏まえて手書き文化が無くならないためにどのようなことを後世に伝えていかなければならないかを考えさせる。	イ① ウ①